

令和3年 福島市職員ひとり1改善・1改革運動「“かえる”チャレンジ」 年間賞受賞一覧

No.	受賞名	項目	件名	取組内容	効果
1	「年間かえる大賞」 「あなたもわたしも楽になったで賞」	改善	保育施設利用状況届の改善	・現況届に、市が把握している現況を印字して配付し、利用者には変更点のみを修正・追加してもらう形式とした。	・利用者は、変更点以外記入が不要となり、負担の軽減が図られた。 ・利用者が市の認定情報を確認できるようになった。 ・変更の有無と変更点が一目で分かるようになり、市の確認作業の効率化が図られた
2	「年間かえる賞」 「柔軟な対応でプラスに転換したで賞」	改善	街路事業等における残地処分（マイナスからプラスへの転換）	・面積狭小・不整形地の土地価格を算定する内規を策定。 ・単独利用可能な土地については、公売にて売却。 ・価格算定から処分までのフローを作成。	・面積狭小地の不動産鑑定料を削減。 ・単独利用困難地は隣接者へ積極的な購入意向確認が可能。 ・随意契約と公売による積極的な残地処分を推進。 ・維持管理費の削減。
3	「見やすい分かりやすいで賞」	改善	コピー用紙の空き箱を利用したラックや分類整理で利用しやすいチラシの設置	・チラシ・パンフレットを、農業企画課発・農業振興課発・それ以外の農業関係（県、他市発など）・その他の計四系統に分類し、異なったラックに収めた。 ・ラック側面には「保険」「就農」などチラシの分類名を記載したタグを、マグネットを用いて取り付けた。 ・「特に来庁者に注目させたいもの」「期日が迫っているもの」を、コピー用紙の空き箱を利用したラックに移した。	・チラシを分類別に配置することで関連するチラシも手に取ってもらえるようになった。 ・職員によるチラシの管理が容易になった。 ・空き箱を利用することで異なった形状のチラシを見やすく設置することができた。 ・チラシ置き場となっていたカウンターの整理ができ有効スペースができた。
4	「DX推進しま賞」	改善	手軽に無料で使えるRPAツールの導入について	・マウスやキーボード操作の自動化を直感的に作成できる無料のRPAツール、シクリを全ての行政情報ネットワークシステム用端末に導入した。 ・試行的にRPAを作成して、財務会計システムの支払伝票出力処理やWEBシステムのパスワード更新処理を手軽に自動化して、作業を省力化することができた。	処理を自動化するプログラム開発の外注費をかせずに、プログラミングの知識や経験のない職員が半日程度で簡単にRPAを作成することができた。 今後は全庁的なRPAツールの活用とRPAに対する理解の促進が期待できる。
5	「利便性大幅アップで賞」	改善	設計積算システムの行政情報端末での利用	・L GWAN回線にてクラウドへ接続することにより行政情報端末での利用が可能とした。 ・I Dを増やし所属単位→個人単位にすることにより同時に処理できる人数を拡張した。	・自席で作業可能（水道局を除く土木・建築 21所属約150名）。 ・繁忙期の順番待ちや移動に係る時間が解消され、事務効率化が図られる。 ・災害時等に所属毎の同時接続可能数が増えたため、対応が迅速化される。 ・端末の賃貸借料及びプリンター等の消耗品費を削減可能。 ・テレワークでの利用にも対応可能。
6	「みんなで輪を組みま賞」	改善	難局には、手を取り合っ てタッグで挑む！ ～東電自治体賠償福島県 内都市連絡協議会を設立～	・東電への損害賠償請求について、交渉や請求、賠償の状況等を情報共有し、自治体同士で連携・団結することにより交渉のスピードアップを図ることを目的として、県内13市による「東電自治体賠償福島県内都市連絡協議会」を設立した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、会議はWe b会議システムを用いたリモート開催としている。	(1) 自治体同士の団結の姿勢をアピールすることにより、膠着状態からの脱却を図る。 (2) 交渉にあたって有益となる情報や交渉のノウハウを共有することにより、交渉を有利に進め、併せてスピードアップを図る。
7	「DX推進したで賞」	改善	ふるさと納税ワンストップ 特例申請書入力業務の RPA化	・申請書記載の受付番号とマイナンバーをAI-OCRによってテキスト化したデータを基に、オープンソースのRPAツール（無償・無期限・無制限で使用可能）を使い、業務管理システムへの入力作業を自動化した。	・RPAのシナリオ（処理を自動化するプログラム）を外注することなく、職員自身が軽易に作成することができた。 ・例外案件の処理に集中できるようになった。 ・処理自動化により別の業務に振り替えることができ、業務の効率化が図れた。